



2011(平成23)年
5月15日
日曜日

発行所
福島民報社
福島市大田町13-17
(郵便番号960-8602)
郵便部付口座 02110-9-1158
電話代法 (024) 531-4111
編集局531-4119 広告局531-4153
事業部531-4173 販売部531-4178
© 福島民報社 2011



祈りの里の
會津大佛
願成寺

福島民報ホームページ
http://www.minpo.jp/
読者センター 0120-803344

伊達市 独自に避難支援

線量問題 飯館に隣接、50世帯150人

伊達市は同市霊山町の一部地区で、東京電力福島第一原発事故による積算放射線量が年間二〇ミリシーベルト以上となる予測が出されている問題で、地区内からの一時避難などを望む住民に、独自の支援を行う方針を示した。十四日に、地区内で開いた原発事故に関する説明会で明らかになった。市が確保した市営住宅への転居支援などを想定。対象地区の住民にアンケートを配布して意向を調査した上で個別に対応する。この地区は国が計画的避難区域に指定した飯館村に隣接している。

市営住宅を確保

対象となっている地区は、計画的避難区域には約五十世帯、約五百十人が生活している。市は、基準値を直ちに年間の放射線の積算線量に健康被害には結びつかない数値であること

域に指定されれば強制力も働き、生活にも支障が出る。住民の要望を聞きながら個別に対応を考えていきたい」と市の判断に理解を求め、避難区域にならないこと

はありがたいが、避難区域と同じ量の放射線を受けているが、補償されないことへの不満が大きい。説明会では、飯館村に隣接する地区の線量問題について、政府の対応に不満を述べた。飯館村は、政府の計画的避難区域となっており、政府は、飯館村に隣接する地区の住民に、独自の支援を行う方針を示した。

飯館村は、政府の計画的避難区域となっており、政府は、飯館村に隣接する地区の住民に、独自の支援を行う方針を示した。飯館村は、政府の計画的避難区域となっており、政府は、飯館村に隣接する地区の住民に、独自の支援を行う方針を示した。

第一号 原発

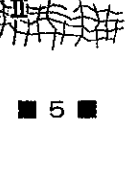
地震で重要設備損傷か

津波の前耐震指針再検討も

東京電力福島第一原発一、二号機の原子炉建屋に、高い放射線量が検出されたこと、津波による電源喪失によって、原子炉内の冷却機能が低下し、炉心が過熱する恐れがある。また、津波による配管の損傷が、原子炉内の冷却機能を低下させている。また、津波による配管の損傷が、原子炉内の冷却機能を低下させている。

津波による配管の損傷が、原子炉内の冷却機能を低下させている。また、津波による配管の損傷が、原子炉内の冷却機能を低下させている。また、津波による配管の損傷が、原子炉内の冷却機能を低下させている。

原発崩



二本松市の塩沢小に十四日、重機が入り、校庭表面の土を削り始めた。作業を見守った市教委の担当者はいったん表情を曇らせた。「これで少しは安心してもらえるだろう」

二本松市、本宮、大玉の三市村が表土の除去を決めたのは九

二本松市、本宮、大玉の三市村が表土の除去を決めたのは九

後手後手線量対策

奥四で最初に校庭や園庭の表

奥四で最初に校庭や園庭の表

奥四で最初に校庭や園庭の表

後手後手線量対策

奥四で最初に校庭や園庭の表

奥四で最初に校庭や園庭の表



ピピコネズ

県内生活情報
7面

あふくは抄

アンズに二次避難することが十五日までに決まった。県外に避難し町によると、三郷市や、町と市が隣接していることなどから二次避難先に選んだ。

1カ月めどに避難求める

計画的避難区域

福島第一原発事故に伴い指定された計画的避難区域の五市町村の人口と対象区域の人口

【図】の通り。事故発生から一年以内に放射線量の積算値が二〇ミリシーベルトに達する恐れがあるとして、国が四月二十二日に指定し、一カ月をめどに避難を求めている。

この他、第一原発二

で開かれた壮行会で、古川町長は「心一つに難局を乗り切ろう」と呼び掛けた。しかし、出席した旅館業男性（心は不安が消えないという。「避難していった子どもたちは、指定が解除されれば山木屋敷地区に戻ってこないのではないかと」。厳しい顔で車に乗り込み、会場を後にした。

「心よりおわび」

東京電力福島原子力災害対策本部副本部長の誠（つづみ） 紀男副社長は「飯館村と川俣町の皆さまには、原子

町によると、三郷市や、町と市が隣接していることなどから二次避難先に選んだ。

【図】の通り。事故発生から一年以内に放射線量の積算値が二〇ミリシーベルトに達する恐れがあるとして、国が四月二十二日に指定し、一カ月をめどに避難を求めている。

この他、第一原発二

川俣で県の仮設住宅建設始まる

十五日、川俣町東福沢の農村広場（約一万六千平方メートル）で県の仮設住宅百五十戸の建設が始まった。同町での仮設住宅着工は初めて。

六月中旬ごろ完成予定で、一時避難先などから妊婦や乳幼児がいる世帯、小中学生のいる世帯、要介護者、高齢者がいる世帯などの順に入居する。

町内では、六月末までに二百戸の仮設住宅が建設される予定。

【図】の通り。事故発生から一年以内に放射線量の積算値が二〇ミリシーベルトに達する恐れがあるとして、国が四月二十二日に指定し、一カ月をめどに避難を求めている。

この他、第一原発二

県、伊達市を支援

一時避難望む住民への独自支援

伊達市の一部地区住民が一時避難を望む場合、市が独自支援を行う方針を示したことを受け、県は市の支援に乗り出す。十五日の県災害対策本部会議で松

川俣で県の仮設住宅建設始まる

十五日、川俣町東福沢の農村広場（約一万六千平方メートル）で県の仮設住宅百五十戸の建設が始まった。同町での仮設住宅着工は初めて。

六月中旬ごろ完成予定で、一時避難先などから妊婦や乳幼児がいる世帯、小中学生のいる世帯、要介護者、高齢者がいる世帯などの順に入居する。

町内では、六月末までに二百戸の仮設住宅が建設される予定。

【14日の県警戒区域一時立ち入り受付センター受付状況】

市町村名	受付件数(件)	立ち入り希望者総数(人)	
		うち県内居住者数	うち県外居住者数
楡葉町	121	208	94
川俣町	43	74	23
川内町	0	0	0
大熊町	28	49	23
双葉町	188	331	166
浪江町	356	608	365
南相馬市	0	0	0
相馬市	162	295	146
田村市	0	0	0
計	898	1,563	817

1563人申し込み

14日の一時立ち入り受け付けセンター

東京電力福島第一原発の二十キロ圏内の警戒区域への一時帰宅に向け県が設けた一時立ち

入りを希望する者が、十四日は八百九十八件、千五百六十三人の申し込みがあった。県が十五日、発表した。十四日の対象市町村ごとの受付件数は「表」の通り。田村市、川内

市の考えへの理解に感謝

伊達市長

伊達市の仁志田昇司市長は県が支援することについて「市の考えについて理解していた

断を尊重してできる限りの支援をしていく」と述べた。

「市は市の災害対策本部などに数件の問い合わせがあったという。今後は、対象地区の住民にアンケートを配布して意向を調査した上で、話し合いの場を設けながら個別に対応する。県などとも連携して取り組んでいる。」

村、葛尾村は自治体が独自に受け付けている。すでに一時帰宅を実施した川内村、葛尾村と二十二日で調整中の田村市以外の六市町村は今後、センターに寄せられた住民の希望状況に応じて今月中旬以降の実施を目指す。

一世帯二人まで立ち入りできる。県は「先着順ではないため、焦らずに電話してほしい」と呼び掛けている。センターは六月十二日まで申し込みを受け付けている。時間は午前八時から午後十時まで。問い合わせはフリーダイヤル(0120)

福島市26.7度

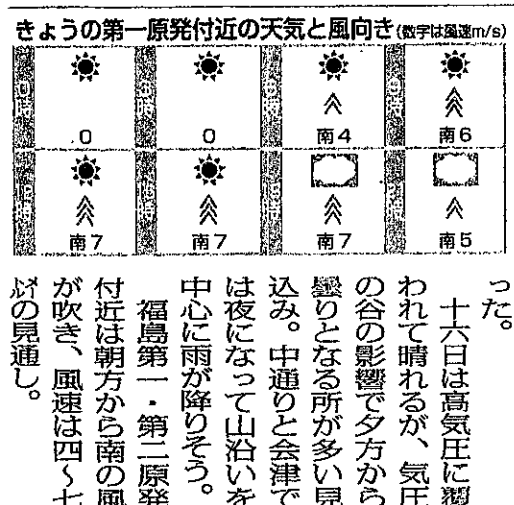
きのこの県内

十五日の県内は高気圧に覆われ、全域で晴れや曇りの天気となった。福島市や石川町などで最高気温が二五度を超え夏日を記録した。

福島地方気象台によると、各地の最高気温は福島市二六・七度、石川町今年最高の二六・一度、伊達市の二六・一度、相馬市二四・五度など。平年を一度六度ほど上回り五月下旬から七月中旬並みの陽気となった。

十六日は高気圧に覆われて晴れるが、気圧の谷の影響で夕方から曇りとなる所が多い見込み。中通りと会津では夜になって山沿いを中心に雨が降りそう。

福島第一・第二原発付近は朝方から南の風が吹き、風速は四〜七メートルの見通し。



下水汚泥 仮置きを

放射性物質検出で国指針

県内自治体困惑

応急措置「混乱するだけ」

県内の下水処理場の汚泥と、汚泥を燃やしてできる「溶融スラグ」から高濃度の放射性物質が検出された問題で、政府の原子力災害対策本部は十二日、汚泥などを当面、下水処理場内や埋め立て処分場に仮置きするよう求める指針を県に通知した。しかし、対策は応急措置にとどまり、汚泥タンクがほぼ満杯状態の自治体などは困惑し、対応に苦慮する。埋め立て処分場に運ぶ際には地域住民の不安解消が大きな課題になる。暫定的な対策では混乱するだけだ。関係者からは国の対応の遅さに批判の声が上がっている。

原子力安全委員会の助言を基にまとめた指針では、放射性セシウムが一当たり一〇万ベクレルを超える高濃度の汚泥は焼却や溶融処理をした上で、場内への仮置きを求めた。

一方、基準を下回る場合は場外に運び出し、産業廃棄物処分場（埋め立て処分場）への仮置きを可能とした。ただ、この際は飛散防止や遮水シート設置、立ち入り制限などを必要としている。

福島市 汚泥から四四万六〇〇ベクレルという高濃度の放射性セシウムが検出された福島市の堀河町終末処分場は、汚染された汚泥がタンクに残ったままだ。管理する市などによると、一週間に満たない間に満杯になる可能性がある。燃やした溶融スラグなら体積は大幅に圧縮されるが、

摘する。

指針はセメントへの再利用にも触れ、「他の材料と混合してセシウムの濃度を原子炉等規制法で定める基準値（五〇〇ベクレル）以下に薄めれば使用できる」とした。県によると、業者間に原発事故の風評も出ており、引き取ってもらえるかどうかは分からない状況という。

下水処理場に仮置き 迫られる。県は「自治体の場合は安全性や周体の財政負担になる。環境に配慮し、専用東京電力に補償を求め、建物を作る必要にも可能性がある」と指摘。

福島市 タンク1週間以内に満杯 市にはその施設がないため、担当者は「仮置きしても、いずれは置き場がなくなる」と不安を募らせる。郡山市にある県中浄化センターでは、溶融スラグから三万四〇〇〇ベクレルが検出された。スラグのため体積は少ないものの、運営する県は「保管する簡易な

県は「指針なので一度、早急に打開策を打てるが、仮置きは出さずよう国に求める異常な事態」とし再としている。

野球場や体育館、プール

入スポーツ施設調査開始

県は十二日、野球場や体育館、プールなどの施設が放射性物質の汚染されていないかを調査する。初日は福島市の信夫ヶ丘競技場、郡山市の児童・生徒の使用頻度の高い屋外・屋内公共スポーツ施設の環境放射線モニタリング調査や室内の中心部と四ヶ所、相対地方四方所、いわき地方八ヶ所、すべての測定地点でおおむね横ばいか減少傾向だった。十一地点以外の環境放射線測定結果は次の通り。

大会開催などの判断に活用してもらう。横ばいか減少 県内放射線量

入スポーツ施設調査開始

県は十二日、野球場や体育館、プールなどの施設が放射性物質の汚染されていないかを調査する。初日は福島市の信夫ヶ丘競技場、郡山市の児童・生徒の使用頻度の高い屋外・屋内公共スポーツ施設の環境放射線モニタリング調査や室内の中心部と四ヶ所、相対地方四方所、いわき地方八ヶ所、すべての測定地点でおおむね横ばいか減少傾向だった。十一地点以外の環境放射線測定結果は次の通り。

【県内11地点の環境放射線量測定値】

(12日午後7時現在。単位=マイクロシーベルト/時間)

月日	測定時刻	福島市	郡山市	白河市	会津若松市	南会津町	南相馬市	いわき市	田村町	市川町	飯館村	川俣町	川俣町	川俣町
12日	1:00	1.50	1.25	0.61	0.17	0.08	0.48	0.24	—	2.99	1.76	9:46	0.71	
												13:45	0.76	



福島市の信夫ヶ丘競技場で放射線量を測定する調査員

民間業者が肥料化するか焼却処分していたが、業者が引き取りに難色を示す可能性が高いと判断した。今後、国や県の指示があるまで工場内に仮置きし続ける予定だ。

ただ、毎日十数回発生する汚泥の置き場には限界がある。大型土のうに詰めて保管する計画だが、スペースは一カ月分ほどしか持たないという。市の担当者は「この期間内に方針が決まらないと大変」と苦悶。

内校庭

表土除去動き広がる

小、渡利中で実施する。その後、順次進めて六月中旬までに終わらせたい考え。二十九校、園以外の施設について



土を

二本松市 除去作業を開始 全ての小中学校、幼稚園、保育所の校庭、園庭の表土除去を決め

は残りの表土を削り埋めた後、プールの土の上から汚染されていない土を約一センチ



2011(平成23)年 5月16日 月曜日

発行所 福島民報社 福島市太田町13-17 (郵便番号990-8602) 編集局 0210-9-1158 電話代装 (024) 531-4111 編集局031-4119 広告部031-4153 事業部031-4173 販売部031-4178 ©福島民報社 2011



東北鑑評会 全国新酒鑑評会金賞受賞 17年連続金賞受賞 名倉山 http://nagayama.jp

福島民報ホームページ http://www.minpo.jp/ 読者センター 0120-803344

飯館川俣計画避難始まる



避難を前に菅野村長(右)の励ましを受ける飯館村民—15日午後1時25分ごろ、村役場前

福島第一原発事故で全域の一部が計画避難区域に指定された県内五市町村の住民避難は十五日、飯館村と川俣町をトップに始まった。唯一、全域が指定された飯館村は六月中旬ごろ、山本屋地区が指定された川俣町は月中旬の予定を目標。ただ、両町村ともに避難先となる仮設住宅は十分に確保されておらず、区域内の事業所の継続採掘などの要望も課題として残ったまま。県は仮設住宅の建設を急ぐ一方、国に対し市町村の要望に早期に対応するよう求める方針だ。(18・19面に関連記事)

乳幼児・妊婦いる世帯優先

全人居先確保急ぐ

飯館村は避難対象の外に移った。内訳は福人、出発前、村役場でた上で避難を始める。二千九百九十三世帯六十、島市吉倉の国家公務員、菅野典雄村長や村職、高校生がいる四十二世帯、五百八十七人のうち、住宅に四世帯三十一、村長が居住した。第一陣として乳幼児、人、福島の旅館に四、小中学生がいる百五、すべて放射線量の高い妊産婦がいる十世帯、世帯二人、二本松市、十六世帯は十六日まで、曾、長沼、坂平の三行、十四人が自家車で村の旅館に二世帯十三に避難先の希望を募り、政区の計百八世帯は十

七日まで意向を聞き、避難先を決める。六月中旬ごろの全村避難終了後、役場機能を福島市飯館支所に移す。川俣町は山本屋地区の三百六十四世帯千二百五十二人のうち、乳幼児や妊婦がいる三十世帯を優先的に避難させる方針で、初日は八世帯四十九人が古川道郎町長から町営住宅の鍵が渡された。十七日からは町内の介護施設などへの高齢者の入居が始まる予定。両町村の計画避難は、避難先の仮設住宅の建設が間に合わない

など課題を抱えた中で、飯館村については全員の避難先がまだ固まっておらず、国が求めた今月中の移動が不可能な状況となっている。

原発崩壊

フクシマからの報告II

6

計画的避難区域に指定された飯館村川俣町山本屋で十五日かたの日の避難が始まった。両地域の農家も間もなく自宅を離れなければならない。農作物を育む大地には東京電力福島第一原発事故によって放射性物質が飛散した。水田からは国の暫定

必要な土壌中の放射性物質の基準値がなかった。さらに、放射性物質を含んだ農地を耕すこと

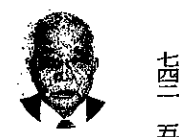
ただ、国の基準値に疑問を抱く農家は少なくない。「収穫し売ることが可能になるとの計算だ。その後、二度目となる県に五〇〇ppmを下回るのか。」「シシトリー産地の二二である本宮市では一時、土壌が五〇〇ppmで基準値を下回り、各地で田植えされた。田植えはできるような

不安残る暫定基準

なしたが、市幹部の一人は不安を隠さない。国は「メ」を認めた地域でも、収穫時に検査をする。万が一、基準値を超過すれば、その間の苦勞は水の泡となり、出荷することはできない。市内の二十餘で稲作を営む後藤勇吉氏は農薬収入の七割を「メ」に頼っている。「たとえ基準を満たしても、本県産というだけ売れなくなったり、価格が下がったりすれば、経営は成り立たなくなる」と嘆く。

テニスコート B.O.S. テニスコート 15面 16面

「生きるための保障」 2011 Antares 新登場!! 全労済



二瓶隆司氏 町議会議長の二瓶隆司氏

二瓶氏が初当選 五十嵐氏を75票差で破る

飯館村は区域内の四十九人のほとんどが避難した一方、約二十世帯の約五十人がまだ残っている。ただ村は全員の避難先を確保し、残っている住民は家の世話のため自宅にいたり、避難先から通ったりしている状況だ。

区域の事業所をばじめ介護施設などを継続して運営できるように求める要望も決着しておらず、国の対応の遅れを指摘する声も少なくない。

飯館村は区域内の四十九人のほとんどが避難した一方、約二十世帯の約五十人がまだ残っている。ただ村は全員の避難先を確保し、残っている住民は家の世話のため自宅にいたり、避難先から通ったりしている状況だ。

飯館村は区域内の四十九人のほとんどが避難した一方、約二十世帯の約五十人がまだ残っている。ただ村は全員の避難先を確保し、残っている住民は家の世話のため自宅にいたり、避難先から通ったりしている状況だ。